

A 177 「健康食品」に関する研究(第2報) — 「健康食品」の利用状況 —

東京家政学院大家政

○新城光代 羽田明子

山一證券(株)栄養管理センター

伊藤至乃 岩間範子

目的 多種類の「健康食品」が市場に出回っているが、その利用状況に関する報告は、ほとんどない。そこで、東京都内・近郊に在住する成人女性を対象に「健康食品」を15分類し、第一報に準じてアンケート調査を実施した。

方法 昭和59年6月下旬から7月初旬に、20歳から60歳までの成人女性480人にアンケートを配布し、約1週間後に回収した。(配布・回収は調査協力者が行った。)回収率は64%であり、年齢別の調査対象者数は表1の通りである。既婚者71%、未婚者29%で、職業を持っている人は55%であった。

表1 年齢別回収人員

年齢	20	30	40	50	計
人員	88	71	120	30	309

結果 健康状態は93%が良好または普通と回答したが、33%の者が健康食品を利用して、年齢別(10歳階級)の利用割合は、年齢が高まるにつれて高くなった。利用の動機は自分から(45%)、知人の紹介による(52%)の割合が高く、医師の指示による(3%)は低かった。使用理由は、なんとなく(45%)が半数近くを占め、食事で補えない(32%)、体の調子が悪い(20%)が高い割合であった。利用効果については、良くなったと回答した者は31%と高くはないにもかかわらず、毎日(58%)または2日に1回(29%)利用している。15分類した健康食品について、以前使ったことがあるものと現在使っているものとを比較したところ、後者が前者を上まわったもの、つまり利用者数が増加しているものと推定されたのはVC、VE、VF、Ca、小麦胚芽で逆に減少しているものと推定されたのはEPA、グルーンで、変化のないものはVB、レシチン等であった。